

§ 3

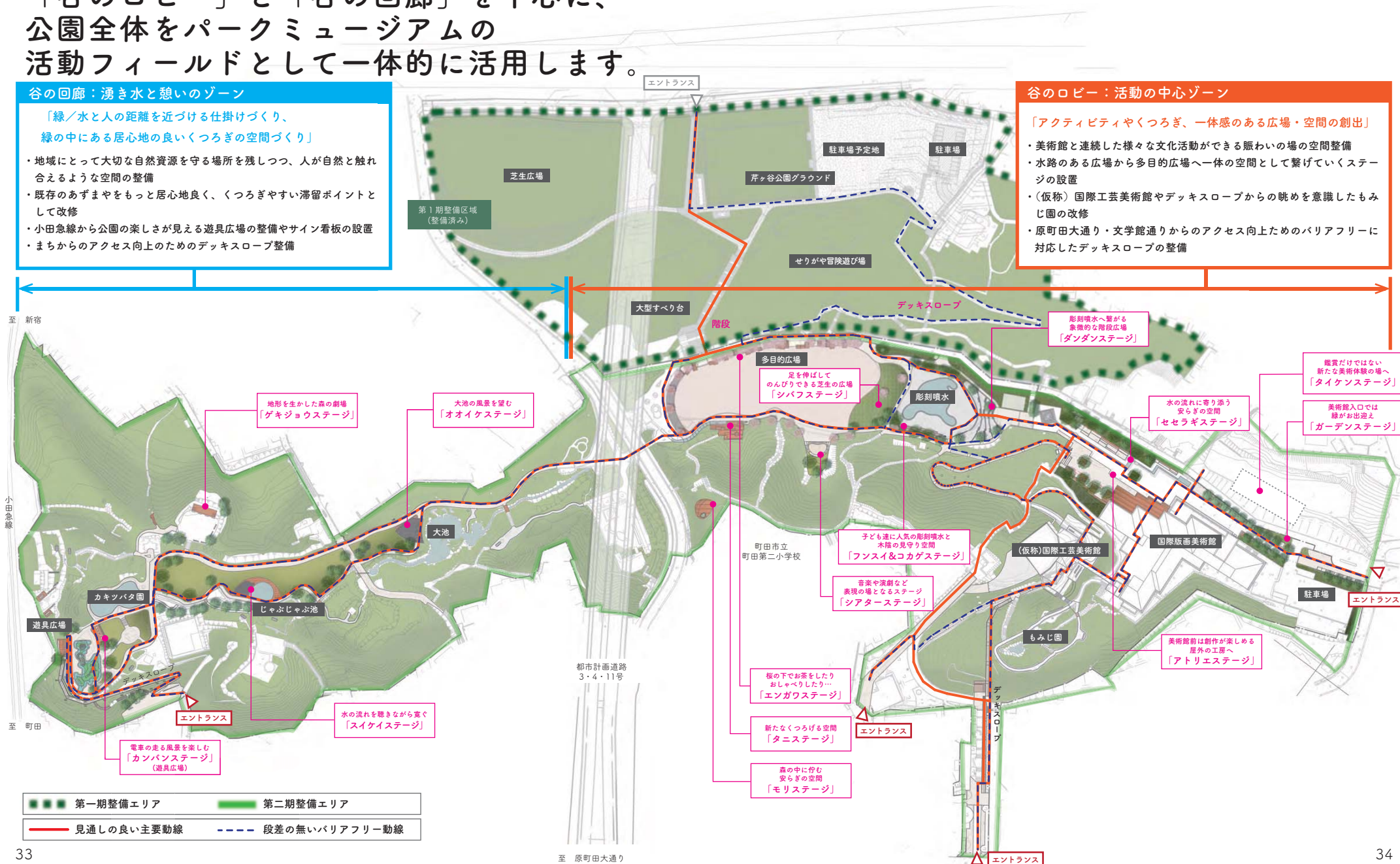
パークミュージアム全体の整備方針

「緑／水と人の距離を近づける仕掛けづくり、
緑の中にある居心地の良いくつろぎの空間づくり」

- ・地域にとって大切な自然資源を守る場所を残しつつ、人が自然と触れ合えるような空間の整備
- ・既存のあずまやをもっと居心地良く、くつろぎやすい滞在ポイントとして改修
- ・小田急線から公園の楽しさが見える遊具広場の整備やサイン看板の設置
- ・まちからのアクセス向上のためのデッキスロープ整備

「アクティビティやくつろぎ、一体感のある広場・空間の創出」

- ・美術館と連続した様々な文化活動ができる賑わいの場の空間整備
- ・水路のある広場から多目的広場へ一体の空間として繋げていくステージの設置
- ・(仮称) 国際工芸美術館やデッキスロープからの眺めを意識したもみじ園の改修
- ・原町田大通り・文学館通りからのアクセス向上のためのバリアフリーに対応したデッキスロープの整備



ステージについて

▶ステージとは？

ステージとはパークミュージアムにおける文化芸術と自然の体験型プログラムの拠点となる場所です。公園内の様々な場所にそれぞれの空間にあわせた特徴や機能を持ったステージを配置します。ステージを拠点にあらゆる活動が展開されることで公園に訪れた人々は町田の多様な文化芸術や公園の豊かな自然を体験することができます。また、ステージで展開される活動は多岐にわたり、アーティストなどによる創造的な文化芸術活動はもちろん、遊びや憩い、スポーツや交流などもパークミュージアムにおける大切な文化的活動です。

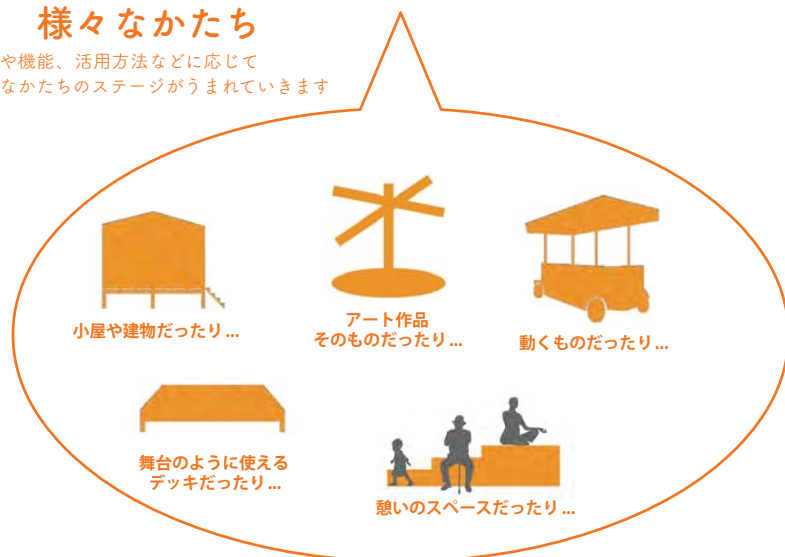
様々な活動

様々な文化芸術と自然の体験型の活動が展開されます



様々なかたち

場所や機能、活用方法などに応じて様々なかたちのステージがうまれていきます



▶ステージの活用イメージ（2020年11月14,15日 Future Park Lab 2020公園活用実証実験より）



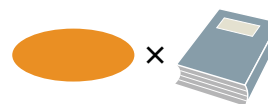
【例えば】
公園の多様なシーンで
音楽ライブをする

芹ヶ谷公園の色々な舞台にして町田ゆかりのアーティストによる青空コンサートを開催。その一つ、噴水彫刻の前では、豊かな楽器の音色に、噴水の水しぶきの音ときらめきが更なる演出を加えていました。



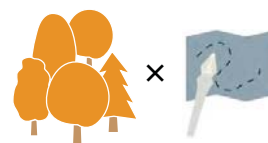
【例えば】
特別なくるまに自由にお絵かきする

民間事業者の地域貢献プログラムにより、自由のお絵かきできるクルマを設置。真っ白なボディを大きなキャンバスにしていつもとは違う特別なお絵かき体験の場になりました。



【例えば】
広場での青空図書館やお話を開催する

いつもの広場が図書館やお話会のステージに。親子で紙芝居を楽しむ姿も。公園でお気に入りの本に出合える場になりました。



【例えば】
芹ヶ谷の豊かな自然の中に
アート展示をする

秋深まる公園の自然の豊かな色彩の中で、クラフト工房LaMano（福祉作業の一環として、障がいのある方の表現やアート活動を行う）と、博物館の作品の紹介展示を楽しんで頂きました。

谷と水と人をつなぐ空間を創出します。

芹ヶ谷公園の最大の特徴でもある「谷地形」。この環境がもたらす自然とともに人々の活動が生まれる場の創出を公園整備では目指していきます。

谷ならではの湧き水や、子ども達に大人気の彫刻噴水など芹ヶ谷公園には、水を活用した既存の水施設がいくつも存在します。それらを生かし、水の流れに沿うように谷のロビーや谷の回廊を整備することで、水の流れを辿ると園内を一周できるような空間となり園内全体を楽しんでいただけます。またそれは、谷という自然環境を感じてもらえるような計画でもあります。そして、水に寄り添うロビー／回廊にステージが付随することによって、ここの環境でしか体験できない多様な人々の活動が生まれます。

DIAGRAM



芹ヶ谷が持つ豊かな自然を守り 未来につなぎます。

4つの整備方針

1. 植生の多様化に向けて緑の更新を行います

健全な樹林の環境をつくるために若い樹木の成長を促進させ、遷移の進む里山の樹林環境を更新していきます。

2. 湧水を保護しながらも、触れ合える場とします

敷地に流れる湧水は虫が生息するなどこの公園を特徴づける大切な資源です。大切に保護するとともに、身近にふれあえる場所も確保します。

3. 安心感のある明るい環境づくりを行います

誰もが安心して様々な活動ができる空間をつくるため、緑を大切にしつつ、明るく開けた整備を行います。

4. 自然に親しみ魅力を伝えるための工夫を行います

芹ヶ谷公園に生息する動物や植物のなかには、希少種とされているものも存在します。これらを大切に保護しながら、多様性のある風景づくりを行うと共に、その魅力を発信できる工夫もしていきます。

緑の整備ゾーニング

第二期整備における緑の整備については上記を全体方針として掲げながら、3つのエリアに分けて整備・管理方針を設定します。

■ 谷の自然環境を大切にするエリア

まとまりのある樹林地となっているエリアは、芹ヶ谷公園が本来持つ自然環境を保全するエリアとします。良好な自然環境維持のために、樹木の剪定・伐採も含め、適切な管理を行なっていきます。

■ 人の居場所を大切にするエリア

谷底は人々の活動を支える場として、見通しの確保や居場所の整備のために、中低木を中心に樹木の伐採を行います。加えて、人々に緑陰や季節ごと違った風景を提供できるような植栽を行います。

■ 人と緑の関わりをつくるエリア

斜面地と谷底の境界部や街との接点である園路周囲は、谷の自然を楽しみながらも、来園者が安全安心に回遊できる動線となるように、地面に光が差し込むように高木を剪定したり、視線を遮る中低木の伐採を一部行います。



公園の入り口と園内の施設同士をつなぐ、
豊かな緑とアート&カルチャーを楽しみながら、
だれもが利用しやすい回遊動線を生み出します。

5ヶ所のエントランスを結ぶバリアフリー動線を設けることで、公園全体の回遊性を高めます。また、駅前からの主動線となるエントランスには、新たにバリアフリー対応のデッキスロープを設けることで、まちとのつながりを強化します。



このデッキスロープを設置することで、このエリアのバリアフリー動線を生み出すと共に、カンパンステージ（遊具広場）への視点場を生み出します。



1期デッキスロープ
第一期整備エリアと谷のロビーは、バリアフリー動線であるデッキスロープでつながっています。



このデッキスロープを設置することで、もみじ園への視点場を作り出します。また、新しく計画される工芸館へのバリアフリー動線となります。



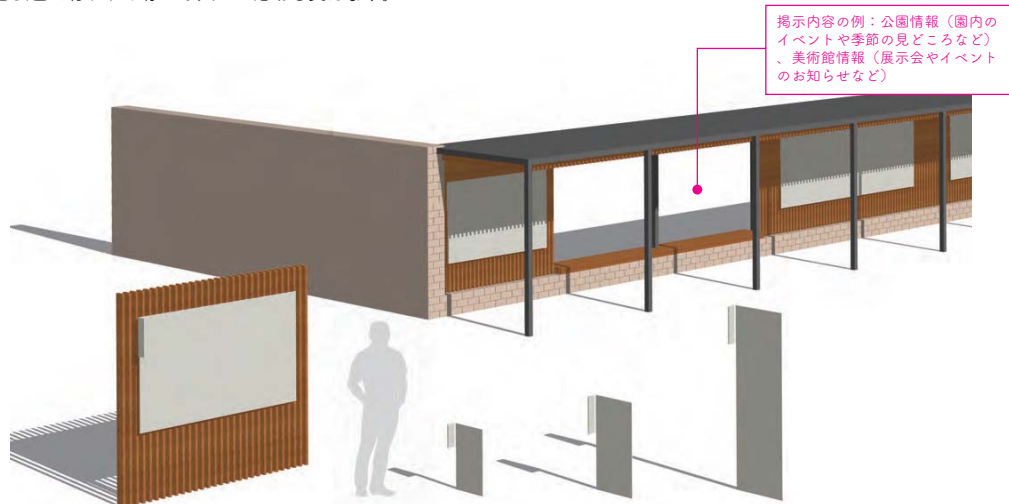
	バリアフリー動線
	歩行者動線
	新設デッキスロープ

動線の考え方について

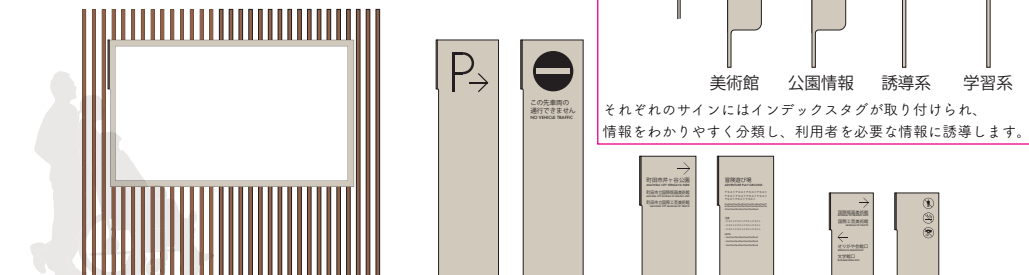
▶サインの考え方について

芹ヶ谷公園の全てを案内する 「芹ヶ谷インデックス」

芹ヶ谷公園内に設置するサインは「芹ヶ谷インデックス」をコンセプトに、施設案内や誘導など来園者が公園を利用する上でのサポート機能や、公園内で行われる様々なイベントやプログラムを紹介する情報提供機能、さらには芹ヶ谷公園の様々な動植物を紹介する図鑑機能を備えたサインを統一されたデザインで公園内全体に展開し、芹ヶ谷公園で行われる様々な人々の活動を支えます。



エントランスなど、人々の目につきやすいところには、情報をしっかりと掲示して訪れた人々にパークミュージアム全体を楽しんでもらえるような計画とします。



サインのデザインを統一し、種類を制限することでよりわかりやすいサイン計画を行います。

▶照明の考え方について

園内の特性に合わせた光による 空間づくり

谷のロビー、谷の回廊それぞれのエリアごとのコンセプトを踏まえ、落ち着いた雰囲気のある夜間景観の醸成を行います。また、ステージ等にも照明を配置し夜間イベントにも対応することによって、園内の魅力的な空間演出を行います。



谷のロビーのベース照明となる、ポール照明



谷の回廊を灯すガーデンライト。回廊は全体的に夜間照度を押さえて、足元のあかりは保ちつつ自然環境に配慮した計画とします。



各ステージに設置されるスポットライト照明。必要な時だけ点灯できるようになります。